

セクション1：製品および会社情報

<u>製品特定名</u>	
製品名	6997 X-50 BLACK
<u>その他の識別手段</u>	
登録番号	情報なし
<u>化学品の推奨用途及び使用上の制限</u>	
推奨用途	Printing ink
推奨されない用途	情報なし

安全データシートの供給者の詳細

製造者

Markem-Imaje
Congress Street
PO Box 2100
Keene, NH 03431
(603) 352-1130 : //www.markem-imaje.com

供給者

マーケム・イマージュ株式会社
東京都渋谷区幡ヶ谷2-19-7
151-0072

e-mail : EandSJP@markem-imaje.com
電話番号 (9 : 00-17 : 30):
Tel : 03-5350-3057
Fax : 03-5350-3148

セクション2：危険有害性の要約

化学物質又は混合物の区別

急性毒性(経口)	区分 4
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分 2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3
区分 3 麻酔作用	

ラベル要素



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H302 - 飲み込むと有害
H319 - 強い眼刺激
H336 - 眠気又はめまいのおそれ

注意書き—安全対策

- ・ 取扱い後は顔、手、露出した皮膚をよく洗うこと
- ・ この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと

- ・ 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を使用すること
- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること
- ・ 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること

注意書き－応急措置

- ・ 該当しない
- ・ 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること
- ・ 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること
- ・ 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること
- ・ 気分が悪いときは医師に連絡すること
- ・ 飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること
- ・ 口をすすぐこと

注意書き－保管

- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと
- ・ 施錠して保管すること

注意書き－廃棄

- ・ 内容物／容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること

その他の情報

- ・ 該当しない

セクション3：組成及び成分情報**化学的性質**

溶剤、ポリマー、色素及び添加剤からなる混合物。

化学名	重量%	化審法	安衛法番号	CAS番号
エチレングリコールモノフェニルエーテル	60 - 70	X	-	122-99-6

セクション4：応急措置**一般的なアドバイス**

症状が続く場合には、医師に連絡すること。粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。眼、皮膚、衣類につけないこと。

吸入

新鮮な空気のある場所に移動する。医師に相談する。呼吸が不規則になった場合又は停止した場合には、人工呼吸を施すこと。直接の接触を避ける。口対口の蘇生術にはバリアを使用すること。直ちに医師の手当てを受ける必要はない。事故により蒸気を吸入した場合には、空気の新鮮な場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

必要ならば医師に相談すること。汚染された衣服と靴を脱いで、直ちに石けんと水で洗浄します。直ちに医師の手当てを受ける必要はない。炎症が続く場合は、医師に連絡すること。

眼接触

大量の水で直ちに洗浄します。最初の洗浄後、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分間、継続して洗浄します。洗っている間は眼を大きく広げてたままにすること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。多量の水で15分以上よく洗浄し、医師の診察を受けること。

経口

口をすすぐこと。多量の水を飲むこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。水で口内を洗浄してから十分な量の水を与えます。意識のない者には、何も口から与えてはならない。医師に相談する。

応急措置をする者の保護

保護具を使用する。

最も重要な兆候及び症状

情報なし。

医師に対する注意事項

症状に応じて治療すること。

セクション5：火災時の措置**引火特性**

火災のおそれ。

適切な消火剤

水噴霧。

使ってはならない消火剤

火災を拡散するおそれがあるので棒状水を使用しないこと。

特有の危険有害性	可燃物ではないが、裸火やその他発火源に曝されると爆発することがある。・ 燃焼すると不快かつ毒性のフェームを発生する。・ 流去水は水路を汚染するおそれがある。・ 火災または強い熱により容器が激しく破裂することがある。・ この物質は水に浮くので火災危険有害性を生じる。
消火を行う者のための特別な保護具	保護具を使用する。・ 他の火災と同様に、プレッシャ・デマンド型自給式呼吸装置、MSHA/NIOSH(承認済みのもの又は同等品)及び全身保護服を着用すること。

セクション6： 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。・ 保護具を使用する。・ 十分換気されているか確認すること。・ すべての着火源を排除すること。・ 人員を安全な区域に退避させること。・ 人員を漏出/漏えい(洩)の風上に遠ざけること。
環境に対する注意事項	水路、下水道、地下室又は密閉空間への侵入を防止すること。安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。製品が排水路に入らないようにすること。環境影響情報の詳細情報については12項を参照のこと。
封じ込め方法	安全に対処できるならば、それ以上の漏えい(洩)又は漏出を防ぐこと。
浄化方法	保護具を使用する。・ せき止めること。・ 液体漏出物を砂、土又はその他の不燃性の吸着材料で覆うこと。・ 機械で取り上げて適切な容器に入れ、処分します。・ 汚染された表面を十分に浄化すること。・ 不活性吸収材料で吸収すること。・ 回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次危険有害性の予防	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。

セクション7： 取扱い及び保管上の注意

取り扱い	皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。・ 保護具を着用する。・ 汚染された衣服は洗浄してから再使用すること。・ 蒸気やスプレー煙霧を吸い込まない。・ この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。適切な排気装置が設置されたエリアでのみ使用する。
保管	容器を密封して換気の良い場所に保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。容器を密閉して涼しく換気の良い場所に保管すること。適切な表示のある容器に保管すること。
混触危険物質	酸化剤と混触禁止。強酸及び強塩基と混触禁止。

項目8： ばく露防止及び保護措置

許容濃度	
技術的対策	十分換気されているか確認すること。洗眼台および安全シャワーが必ず作業場所の近くにあることを確認すること。
保護具	
呼吸器の保護	通常の使用では必要がない。換気が不十分な場合、適切な呼吸用保護具を着用する。
手の保護具	から作られた不浸透性の手袋。ネオプレン、ブチルゴム、ニトリルゴム。
眼/顔の保護具	密着性の高い安全ゴーグル。顔面シールド。
皮膚及び身体の保護具	長袖の衣類。耐薬品性エプロン。エプロン。不浸透性手袋。
口腔衛生	飲食物から遠ざけること。使用中は、飲食や喫煙をしないでください。・ 汚染された衣服は再使用する前に洗濯すること。・ 可能な限り適切な保護手段を使い、溶剤との接触を避けることは産業衛生上推奨される。・ 装置、作業エリア、衣服の通常の洗浄。

セクション9： 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

物理的状态	液体		
外観	情報なし	臭い	情報なし
色	情報なし	臭いのしきい値	情報なし

特性	値	備考
pH	NA	この温度は、特定の条件下(微細物質の緩慢酸化)では著しく低下するおそれがある
		融点 / 凝固点 < °C / < °F
		沸点 / 沸点範囲 242 °C / 467.6 °F
		引火点 121 °C / 249.8 °F
空気中での可燃限界 可燃性又は爆発性の上限 燃焼又は爆発の下限 蒸気圧	ND 0.9%	比重 - 値 1 水への溶解度 1.15 他の溶剤への溶解度 水に不溶性 情報なし
自然発火温度 分解温度 動粘性率 動的粘度 酸化特性	495 °C / 923 °F 情報なし 情報なし ND 情報なし	
その他の情報		
軟化点 分子量 水への溶解度 分配係数	情報なし 情報なし 水に不溶性 データなし	

セクション10：安定性及び反応性

安定性及び反応性 安定性	通常の条件下で安定。
爆発データ 機械的衝撃に対する感度 静電放電に対する感度	なし。 なし。
危険有害性反応	危険有害性の重畳は発生しない
避けるべき条件	裸火、高温面および着火源から遠ざけること
混触危険物質	酸化剤と混触禁止 強酸及び強塩基と混触禁止
危険有害な分解生成物	通常の使用条件下ではない

セクション11：有害性情報

主なばく露経路	吸入 皮膚接触 眼接触		
標的臓器影響	眼 皮膚 呼吸器官 血液 肝臓 腎臓 甲状腺 膀胱 呼吸器系		
急性毒性 眼 皮膚 吸入 経口	眼を中程度に刺激する 刺激のおそれ 皮膚に中度の刺激を引き起こす。経皮吸収により有害。刺激のおそれ 呼吸器系を刺激する 吸入すると有害のおそれ 気道刺激を引き起こすおそれ 摂取すると粘膜の刺激を引き起こすおそれがある		
成分情報			
化学名	経口LD50	経皮LD50	吸入 LC50
エチレンジグリコールモノフェニルエーテル	= 1260 mg/kg (Rat)	= 5 mL/kg (Rabbit)	
慢性毒性	骨髄及び造血系への悪影響のおそれ 肝臓への悪影響のおそれ 反復ばく露を避けること		
悪化する病状	事前に存在する眼の障害 血液疾患 腎臓疾患 肝臓疾患 皮膚疾患 呼吸器疾患 膀胱 甲状腺疾患		

発がん性

下表は各機関が何らかの成分を発がん性として記載しているかを示す

セクション12： 環境影響情報生態毒性

水性生物に対して有害である

急性水生毒性

化学名	CAS番号	急性水生毒性
エチレングリコールモノフェニルエーテル	122-99-6	0

化学名	藻類/水生植物	魚類	微生物に対する毒性	甲殻類
エチレングリコールモノフェニルエーテル	500: 72 h Desmodemus subspicatus mg/L EC50	337 - 352: 96 h Pimephales promelas mg/L LC50 flow-through 220 - 460: 96 h Leuciscus idus mg/L LC50 static 366: 96 h Pimephales promelas mg/L LC50 static		500: 48 h Daphnia magna mg/L EC50

GHS分類 慢性水生毒性残留性/分解性

本製品自体のデータは、無い。

生体蓄積性

この製品のデータはない

移動性

製品は不溶性で水に沈みます。

その他の環境情報

情報なし

セクション13： 廃棄上の注意残余廃棄物

現地の規則に従って廃棄すること。

セクション14： 輸送上の注意IMDG

規制対象外

ADR

規制対象外

IATA

規制対象外

セクション15： 適用法令消防法:

第4類(引火性液体)第三石油類 水溶性液体 指定数量 4, 000L

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律

化審法 特定化学物質

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)

労働安全衛生法

労働安全衛生法 有機溶剤中毒予防規則

特定化学物質障害予防規則

危険物 引火性の物

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条1、施行令第18条)

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

毒物及び劇物取締法

毒物(Poisonous)/劇物 (Deleterious), 適用濃度%

セクション16：その他の情報

発行日 21-1-2019

改訂記録 SDSの余白にある記号(*)は、その行が改訂されたことを示す。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例
・ 情報なし**安全データシートのおわり**